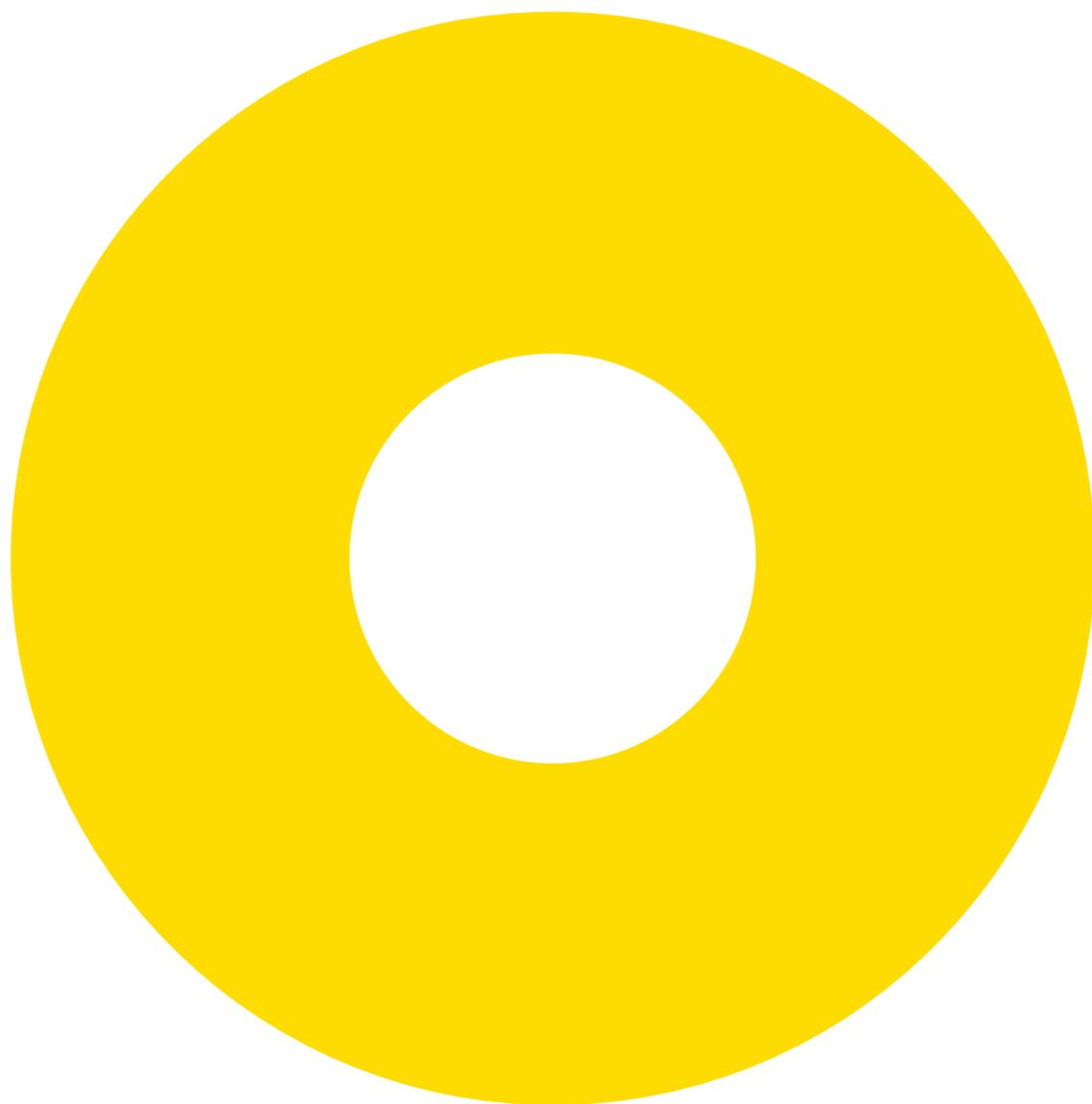


# **GOLDWIN**

## **CSR REPORT**



### ゴールドウィンCSRレポート 2011

この報告書は2010年度(2010年4月1日から2011年3月31日)の活動を中心に、一部直近の活動を含みます。

## トップメッセージ

### スポーツを軸とした企業活動を通して、社会的な責任を果たしてまいります。

#### 東日本大震災からの復興に向けて

このたびの東日本大震災により被災された方々には、心よりお見舞いを申し上げます。被災地域にお住まいの方々が、復旧・復興し、再び安心して暮らせる日が、一日も早く来ることを心よりお祈り申し上げます。ゴールドウイングループは、被災地の復旧に役立てていただくために、これまでに義援金、募金、物資などによる支援をしてきました。震災以降、被災地には多数のアスリートが駆けつけ、スポーツを通じた交流によって、被災者を励まし、勇気を与えています。私たちも、被災者の方々が再びフィールドで思いきり汗を流し、スポーツの楽しさや感動を味わうことができるよう、アスリートや支援団体などと協同することで、継続的な支援を実施してまいります。

#### 「品質本位」「お客様本位」にもとづく「ものづくり」

「人々の暮らしをもっと楽しく、健康的に。ゴールドウインは、スポーツフルなライフスタイルを創造し、提供する」という企業理念のもと、スポーツを通して豊かな健康社会を実現することを使命としてきました。当社の原点は、「品質本位」「お客様本位」にもとづく「ものづくり」です。創業以来この基本方針のもと、スポーツ用途はもちろん、スポーツ用途で開発した機能を日常生活においても積極的に使っていただけるように商品の開発に努めてきました。

JAXA、J-Spaceとのコラボレーションにより、宇宙での着用テストを経て開発された抗菌防臭下着や、アウトドアにおける必然性から生まれたわずか70グラムの超軽量ジャケットなども、そういった姿勢から生まれた商品です。

昨年には創業60年を迎えましたが、この大きな節目を迎えるにあたり、原点に立ち戻り、「しっかり守るべきもの」と「積極的な攻めに転じるもの」を明確にし、さらなる成長をかなえられるよう、新たな成長戦略の構築をスタートしました。計画初年度に大震災が発生し、その影響を受けましたが、ステークホルダーのみなさまのご支援により、復配を成し遂げられたことには、心より御礼を申し上げます。

ステークホルダーのみなさまに、当社の活動にさらなるご理解を賜るためにも、継続的な企業価値の向上のためにも、迅速かつ的確な意思決定にもとづく経営を実現するためにも、当社はCSR（企業の社会的責任）を重要課題と位置づけております。スポーツを軸とした企業活動を通して、社会的な責任を果たせるよう、いっそう自覚を高め、さらなる努力をしてまいります。

#### 限りある資源の有効活用

当社が、環境保護に関する「GREEN IS GOOD」というテーマを掲げたのが2008年。以来、製造から販売までの過程において、環境負荷の低い材料を積極的に使用し、長く商品を使用していただくことこそが最大のエコであると訴求してきました。こうした考えのもと「丈夫で使い勝手が良く、機能的で修理ができる商品」「使用後は再生できる商品」の提供に取り組んでいます。最近では、ポリエステルやナイロンといった石油由来の化学繊維を再生して使用する循環型リサイクル・システム「グリーンサイクル」についても積極的に推進しています。

#### スポーツを通じた従業員の育成

お客様に信頼され続けるためには、商品を利用するお客様の気持ちを感じとり、お客様に求められるものをタイムリーに提案する必要があります。当社の場合、従業員自らがフィールドに出向き、自分たちが生み出した商品を実際に着用し体感します。就業中にも自社製品を積極的に着用することで、それらの長所と短所を実感することを心がけています。

昨年からはスタートした自転車通勤の奨励もそうした取り組みのひとつです。従業員自らのライフスタイルの延長として健康市場を作り上げ、正しいルールとマナーの啓蒙を行うこの取り組みは、当社の事業にも関連する地球環境保全につながる活動であるのと同時に、本業を通じたCSRの実践でもあります。

なお、当社はISO14001の認証を取得していますが、省資源活動や環境配慮型商品を開発するだけにとどまらず、従業員ひとりひとりが環境を意識して活動することを心がけています。

2011年7月

株式会社ゴールドウイン

代表取締役社長 西田明男



# CSRに関する基本的な考え方

## ゴールドウイングループCSR方針

スポーツを通じて、人と社会、地球環境との調和をはかり、  
持続可能で豊かな社会の実現に寄与します。

「スポーツ」は自然をフィールドとして行われます。自然が破壊され環境が汚染されることは、すなわちスポーツを楽しむ環境「スポーツフィールド」の消滅を意味します。ゴールドウイングループは、次世代のためにも「スポーツフィールド」を維持することに全力を尽くします。それが社会、ひいては当社の発展につながるからです。

長く安心して使えるモノやサービスの提供、企業統治／リスクマネジメント体制の充実も、環境保全と並んで発展には欠かせません。これらによってステークホルダーのみならず信頼を得ることが、当社にとってのCSR推進活動の基本となっております。

## CSR推進体制

当社の役員および関係会社代表が出席する「CSR推進委員会」を設置。CSR推進委員会で決定された基本的な活動方針は、グループ従業員全員に徹底され、各部門および個人レベルで具体的な活動を推進します。

## ゴールドウイン企業理念

スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること

We Provide Sportful LIFE.

人々の暮らしをもっと楽しく、健康的に。

ゴールドウインはスポーツフルなライフスタイルを創造し、提供していきます。

## 私たちの使命

頂点を極められるギアを提供するスポーツアパレルメーカーとして、

スポーツ各分野において最高レベルの機能を持つ商品を開発していきます。

### ① 次世代の育成

次世代の子どもたちにスポーツの楽しさを伝えていきます。

### ② 健康

スポーツを通じて心と身体の健康を応援します。

### ③ 地球環境

持続可能な社会の発展に貢献します。

### ④ 全員参加での取り組み

優れた商品は優れた従業員から生まれるとの理念のもと、事業運営を進めていきます。

### ⑤ 企業倫理の遵守

企業統治／リスクマネジメント体制の充実をはかるとともに、企業倫理の遵守を徹底します。

## 社会とともに持続的に成長していくために

ゴールドウイングループは、CSRに対する取り組みをすべてのステークホルダーのみなさまにご紹介し  
ます。CSRレポート2011では、「ものづくり」という事業領域を通じて、社会とともに持続的に成長  
していくための取り組みをテーマ別にご紹介します。

このレポートを通じて、ゴールドウイングループについてより多くのことを知っていただき、コミュニケーションのきっかけにいただけたら  
幸いです。本レポートならびに当社のCSR推進活動に対するご意見、ご感想、ご要望などもお待ちしております。当社のCSR推進活動は、  
まだ始まったばかりですが、「身の丈にあった、継続的で、全員参加によるCSR推進活動」をモットーに、これからも積極的に取り組んでまい  
ります。

なお、環境面への配慮から本レポートは印刷せず、当社ホームページのみでの公開としております。

### 報告範囲

対象期間：2010年4月から2011年3月の活動を中心に、一部直近の活動を含みます。

対象範囲：ゴールドウイングループ全16社を対象としております。

発行：2011年7月

発行責任者：管理本部総務部 CSRレポート編集室

### 主要コミュニケーション媒体

ゴールドウイングループホームページ：<http://www.goldwin.co.jp/>

CSRレポート：<http://www.goldwin.co.jp/corp/csr/index.html>

会社情報：<http://www.goldwin.co.jp/corp/info/outline.html>

# 目次

## トップメッセージ ..... P01

## CSRに関する基本的な考え方 ..... P02

## CSR経営／ガバナンス体制 ... P05

コーポレート・ガバナンス体制を整備／内部統制システム／内部統制システムの基本方針／  
企業と社会が共存していくために／企業行動規範

## お客様とともに ..... P09

宇宙開発から生まれた技術を日常シーンへ／iPadで顧客とのコミュニケーションを促進／  
スイマーたちのベストパフォーマンスを願って／過去の失敗を今後に活かす／  
付加価値の高い商品開発のために／基本方針の徹底を確認／販売スタッフのスキルの向上のために

## 従業員とともに ..... P14

より働きやすい職場づくりを目指して／健康的な生活を送るために／ワークライフバランスを大切に／  
正しい食生活を送るために

## 地球環境とともに ..... P18

持続可能な社会を実現するために／2010年の活動報告／環境への意識をより高めるために／  
PVCフリー素材で環境に配慮／環境を考える製品開発コンセプト「GREEN IS GOOD」／  
製品の購入からはじまる植樹活動／従業員の環境への意識を大幅にアップ／  
自然にあふれた地域との共存を目指す／「環境に良いこと／体に良いこと」を提案する場所／  
子どもの創造力、個性を育むために／貴重な生態系を保護する

## 地域社会とともに ..... P25

さまざまな形で、東日本大震災からの復興を支援／国境を越えて広がる災害支援／  
清掃ボランティアを通じた地域貢献／高校生がバスケットボールを楽しむ環境作り／  
若手プレイヤー層の拡大のために／緑豊かなゴルフ環境を維持するために／障がい者福祉を支援する取り組み／  
障がい者スポーツの発展のために／サイクリングのマナー向上をめざして／高機能ウエアが一大チャレンジを支える／  
恵まれない環境に生きる子どもをサポート／スポーツの楽しさを次世代に伝える／  
次世代のスキーヤーの育成をサポート

## 会社情報 ..... P35

## CSR 経営／ガバナンス体制

ゴールドウイングループは、適正な業務を保証する体制を整え、経営の透明性を高めるとともに、良識のある企業として責任を果たしてまいります。



# CSR 経営／ガバナンス体制

## コーポレート・ガバナンス体制を整備

### 経営の透明性を高めるために

ゴールドウイングループは、公正かつ効率的な企業経営の実現と、激変する経営環境へのスピーディな対応を目的として、コーポレート・ガバナンスの充実を、経営の最優先課題としております。

当社では、取締役の職務責任を明確にするために、その任期を1年と定めています。取締役会は、原則として月1回の頻度で開催されますが、必要に応じて不定期でも開催されます。そこでは法令で定められた事項および重要事項の決定を行うとともに、業務の執行状況を監督し、その進捗報告を実施。

当社は執行役員制度を導入しており、取締役会が任命する執行役員は、各々の領域で委譲された権限のもと、取締役会が決定する経営戦略にもとづき業務を執行します。

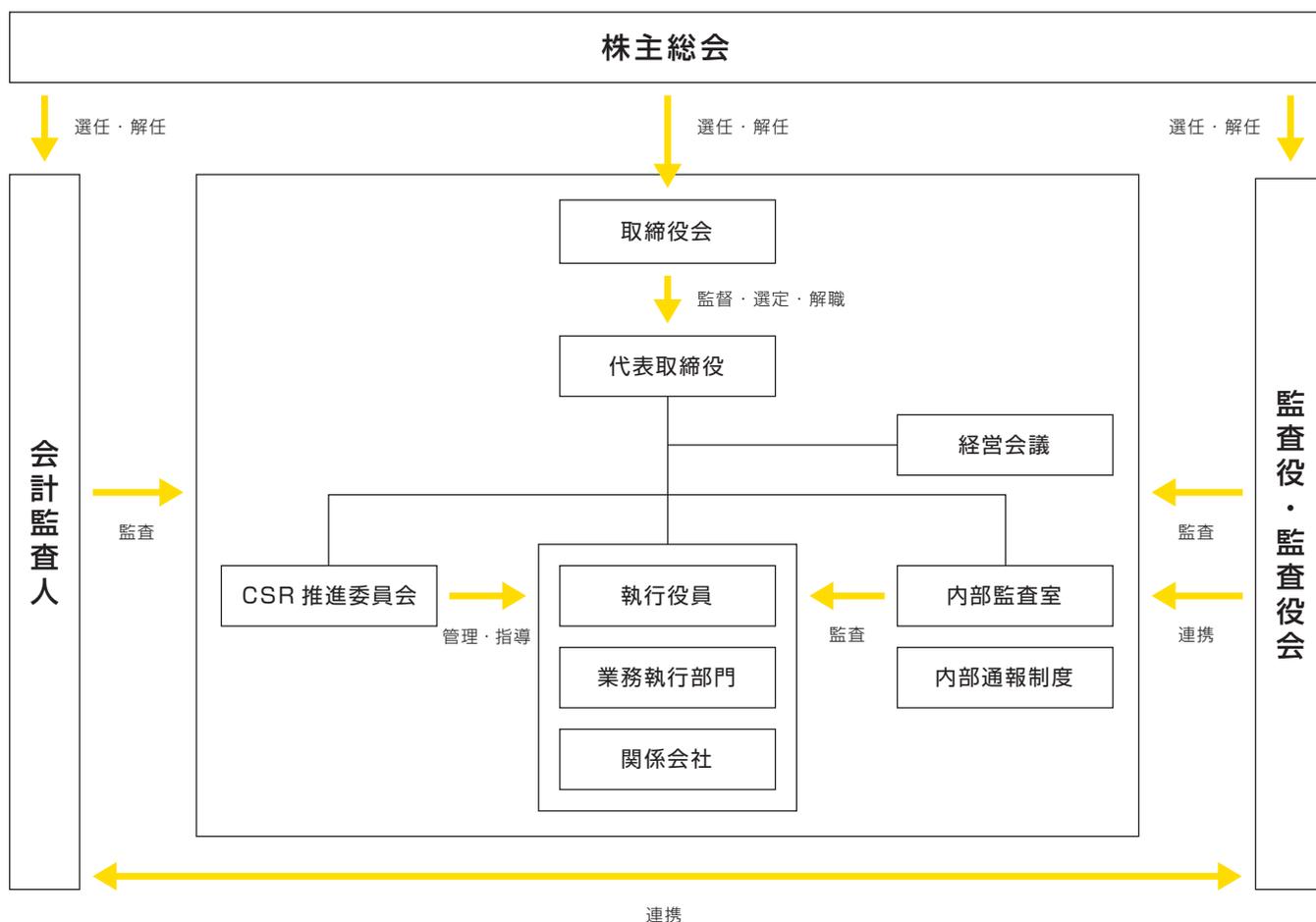
取締役と常勤監査役、執行役員で構成される経営会議は、事業執

行に関する重要事項などを審議決定するために、原則として月1回開催されます。

監査役会は4名で構成されており、そのうち3名は社外監査役です。監査役は取締役会で意見を述べ、取締役の業務執行状況の監督を行うことによって、健全な経営と社会的信用の向上に努めます。

内部監査を担当する内部監査室は、他の業務執行組織から独立しています。その客観的な立場より、法令および社内規程の遵守状況の確認を行うとともに、業務と経営効率の改善／向上、内部統制システムの運用状況のチェックを行い、その結果を代表取締役、業務執行取締役および常勤監査役に報告します。

当社は会計監査人に新日本有限責任監査法人を選任しています。会計監査人に正しい経営／財務情報を提供し、公正普遍的な立場から監査が実施される環境を整備しております



## 内部統制システム

### 適正な業務を保証するための体制

「人々の暮らしをもっと楽しく、健康的に。ゴールドウインは、スポーツフルなライフスタイルを創造し、提供していきます」という企業理念、経営方針および行動規範に示される経営戦略ミッションを、ゴールドウイングループ全役員によって具現化するために、適切な組織の構築や、規程・ルールの制定、情報の伝達および業務執行のモニタ

リングを行なう体制として、内部統制システムを整備・維持しております。また内部統制システムは適宜見直され、改善を行ない、適法かつ効率的に業務を執行する体制の確立をはかっております。

2008年4月より適用された「金融商品取引法」による内部統制報告制度に対応するために、「ゴールドウイン財務報告基本方針」も制定。財務報告に関する内部統制を強化する体制を整備しました。

## 内部統制システムの基本方針

取締役の職務の執行が、法令および定款に適合することを確保するための体制、  
その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定事項は、以下の通りです。

1. 取締役の職務の執行が、法令および定款に適合することを確保するための体制について（会社法第362条第4項第6号）  
コンプライアンスの徹底とモニタリング体制を整備し、取締役の職務の執行が法令などに適合することを確保します。また当社の取締役は、あらゆる反社会的勢力とは一切の関係を持ちません。

2. 使用人の職務の執行が、法令および定款に適合することを確保するための体制（会社法施行規則第100条第1項第4号）  
コンプライアンスを徹底し、モニタリングが行える体制を整備し、使用人の職務の執行が法令などに適合することを確保します。また当社の使用人は、あらゆる反社会的勢力とは一切関係を持ちません。

3. 取締役の職務の執行に関する情報の保存、および管理に関する体制（会社法施行規則第100条第1項第1号）  
取締役の業務執行に関わる情報は、法令および社内規程に従い、適切に保存／管理します。

4. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制（会社法施行規則第100条第1項第2号）  
グループ全体のリスクを統合的に管理し、損失の危険の発生を未然に防止します。また万一損失の危険が発生した場合でも、万全に対応し損失の極小化をはかります。

5. 取締役の職務の執行を、効率的に行うための体制（会社法施行規則第100条第1項第3号）  
グループの企業理念を定め、グループの経営計画を明確化し、適切な経営管理を行うことで取締役の職務執行の効率性を確保します。

6. 会社ならびにその親会社、および子会社からなる企業集団における、業務の適正を確保するための体制（会社法施行規則第100条第1項第5号）  
グループの企業理念と経営方針を各社に浸透させます。またコンプライアンスを徹底し、業務の適正化をはかります。

7. 監査役が、その職務を補助すべき使用人をおくことを求めた場合における、当該使用人に関する事項（会社法施行規則第100条第3項第1号）  
監査役が職務の実効性を高め、かつ円滑な監査業務を遂行するために、使用人をおくことを求めた場合、専任かつ職務を遂行するに足る十分な経験と知見を有する使用人を任命します。

8. 補助使用人の、取締役からの独立性に関する事項（会社法施行規則第100条第3項第2号）  
監査役付の使用人の独立性を確保するために、監査役付の使用人の任命や異動など、人事に関わる事項の決定は、監査役会の事前同意の上で実行します。

9. 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制、その他の監査役への報告に関する体制（会社法施行規則第100条第3項第3号）  
取締役および使用人が監査役に対して適切に報告する機会と体制を確保します。

10. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制（会社法施行規則第100条第3項第4号）  
毎年策定する監査計画に従い、監査役が実効性のある監査を実施できる体制を整えます。

## 企業と社会が共存していくために

### 継続的な「コンプライアンス教育」

当社が「企業行動規範」(下段参照)と「社員行動基準」を改定したのが2008年。以後、社員がこれらへの理解を深めることを目的とした研修を、継続的に実施しています。そこでは、企業行動規範/社員行動基準のガイドブックの配布に加え、法令や会社の規程を遵守し倫理的に行動することを約束する「誓約書」が配布され、2009年4月、全役員および全従業員がこれに署名をしました。

社員の倫理観を高めるコンプライアンス教育は、グループ全社を対象に継続的に実施されています。2010年度は、新入社員をはじめ管理職から一般従業員、パート社員まで階層別/地域別に、のべ34回開催され履修率はほぼ100%と大幅にアップ。研修にはひとりひとりの社員が高い意識をもって臨めるよう、ビデオ視聴、問題演習を採り入れるなど階層別/職種別の工夫がされています。

企業は経済面だけで評価されるものではありません。企業が社会と共存していくためには、法令を遵守し、ひとりひとりの社員が高い倫理観を備えている必要があります。それこそが、企業の社会的責任です。

### 企業行動規範

1. 法令・社会規範を遵守し、フェアプレー精神の健全な企業活動を行います。
2. 株主・投資家・顧客、取引先などへ、企業情報を積極的かつ公正に開示し、経営の透明性の向上に努めます。また、個人情報・顧客情報ははじめとする各種情報の保護・管理を徹底します。
3. 社会的に有用で安全な製品・サービスを開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を確保します。
4. 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。
5. 企業活動を通じてスポーツ文化の発展に寄与し、積極的に社会貢献活動に取り組みます。
6. 国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、現地の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する経営を行います。



東京での研修風景。講師からは「法令を守っているだけでは不十分」といった話も。講義のほか、コンプライアンスに関するビデオの視聴、演習問題などが行われました

7. 経営トップは本行動規範の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内およびグループ企業にその徹底を図るとともに、取引先にも促していきます。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を確立します。
8. 企業倫理に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決に当たる姿勢を社内外に示し、原因究明、再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にしたうえ、自らを含めて厳正な処分を行います。
9. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存続と活動に必須の要件であることを認識し、地球環境の保全と資源の有効利用、環境保全活動を促進します。
10. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、一切の関係遮断を徹底します。

従業員行動基準 (<http://www.goldwin.co.jp/corp/csr/governance.html>)

## お客様とともに

ゴールドウイングループは、より高品質な商品、より便利な店舗、より快適なサービスを提供することによって、より多くのお客様の満足を目指してまいります。



## お客様とともに

### 宇宙開発から生まれた技術を日常シーンへ

#### 宇宙で培われたテクノロジーを応用した下着、MXP

着るだけで汗のニオイと加齢臭をカットできる素材「マキシフレッシュプラス」は、ゴールドウインとJAXA、J-Spaceのコラボレーション「宇宙オープンラボ」から生まれたもの。そんな「宇宙下着」の技術を応用し、地上用に展開したブランドが「MXP」です。この消臭機能は、アンダーシャツやボクサーショーツ、枕カバーなどさまざまな日用アイテムに活かされています。汗のニオイの元となるのは、アンモニア、酢酸、イソ吉草酸と加齢臭の元といわれるノネナール。これら臭気成分を中和、吸着により減少させます。また、洗濯によって、この消臭機能は復元しますので、何度でも繰り返し使用できます。

#### 発熱機能を持つ新ラインナップ

マキシフレッシュプラスを採用したアンダーウェア「エレッセ丸首長袖シャツ」「エレッセ丸首半袖シャツ」「エレッセ丸ロングパンツ」には、消臭機能に加え、発熱して身体を温める「吸湿発熱素材」を使用。この素材は、身体から出る水蒸気を吸収して繊維自体が発熱するため、ウインターライフを快適にしてくれます。また、身体の動きを妨げない立体設計を採用。動きやすさを高める肩幅とアームホール、股関節の可動域を広げる立体設計により、ストレスフリーの動きやすさを誇ります。

#### 女性用アンダーウェアにも活用

2010年2月にスタートした「MXP」ブランドの第三弾として登場したのが、汗ジミや汗のニオイが気になる働く女性を対象にした、フレンチスリーブシャツ、タンクトップ、キャミソール、ショーツの4商品。脇下部分の吸汗パッドにより、シャツの汗ジミを抑えるのと同時に、MXPの消臭効果によって、気になる汗のニオイと加齢臭を大幅にカットします。



「JAXA COSMODE PROJECT」は、日本の宇宙開発から生まれた最先端のアイデアをより多くの日常に届けるために発足した、プロダクト開発プロジェクトです。



着るだけで加齢臭と汗のニオイを大幅に減少させる素材「マキシフレッシュプラス」を採用したアンダーウェア。ともに身体のラインに合わせた立体設計のため、余計なストレスが一切かからず動きやすいのが特徴です

## iPadで顧客とのコミュニケーションを促進

### 全商品を閲覧できる デジタルカタログ

iPadで閲覧できる商品カタログが、2010年11月中旬より順次THE NORTH FACEの店舗に導入されました。このデジタルカタログを使用すると、THE NORTH FACEの全商品が閲覧できるため、お客様には店頭で販売していない商品情報も提供できます。デジタルカタログには、電子書籍版とWeb版の2種類を用意。各店舗の販売員は、接客する際に、お客様とのコミュニケーションツールのひとつとして、これを活用。導入店舗は、東京と札幌にあるTHE NORTH FACE直営5店舗の「THE NORTH FACE 原宿店」「THE NORTH FACE STANDARD」「THE NORTH FACE 表参道ヒルズ店」「THE NORTH FACE 3 (march)」「THE NORTH FACE サッポロファクトリー店」です。



iPadで閲覧できるデジタルカタログ。店舗に在庫のない商品も、店頭で確認できます

これまでPCとモバイル端末のみに対応していた当社ECサイト「GOLDWIN WEB STORE」(<http://goldwinwebstore.jp/>)も、2010年9月よりiPhoneに対応。THE NORTH FACEを含む全17ブランドのアイテムを、場所を問わずどこにいても購入できるようになりました。今後もさまざまなデジタルデバイスを積極的に取り入れることで、より多くのお客様に、快適なショッピング環境を提供します。

## スイマーたちのベストパフォーマンスを願って

### レーザーレーサーの生地をお守りに

2010年、FINA（国際水泳連盟）による規定変更にともない、公式大会では着用できなくなったスイムスーツ Speedo「LZR RACER（レーザーレーサー）」。当社は、LZR RACER100着の生地を裁断し、お守り1,300個として蘇らせました。

この取り組みは、「LZR RACER」がスイマーのベストパフォーマンスを後押しするために開発されてきたという想いを眠らせず、再びスイマーの力として蘇らせることを目的としたものです。また、LZR RACERを身にまとい、数々の記録を塗り替えてきた選手たちに、最大限の敬意を表す目的で行われました。お守りは非売品で、2011年2月中旬からSpeedo取り扱い店舗の一部で、「LZR Pulse（レーザーパルス）キャンペーン」対象商品をご購入の方にプレゼントされました。お守りの中には、念のこもった「勝」の文字を刻み込んだプレートをお守りのお祓いは、「スポーツ振興の神」として、勝利を願う多くのアスリートが足を運ぶ、亀戸・香取神社で執り行われました。

新たな規定の中で、記録更新に挑む選手をサポートすることは、80年以上のリーディングスイムブランド「Speedo」の理念でもあります



LZR RACER、100着分の生地から生まれた1,300個のお守り。ベストを追い求めるスイマーたちの願いをかなえます

## 過去の失敗を、今後に活かす

### 品質不良製品、および事故事例展を開催

継続的に開催されてきた「品質不良製品および事故事例展」が、2010年10月に開催されました。これは東京本社地区と富山工場地区で、全従業員を対象に、各2日間ずつ開かれる催しです。会場では、100点以上の事故事例品のパネルを展示。素材の開発段階からお客様が使用するに至るまでのすべての工程において、今後の製品開発に生かすべき注意点を呼びかけました。

当社では、カスタマーサービスセンターに寄せられたご意見およびクレームに、各事業部や各ブランドが個別に対応するのではなく、「品質保証部」が一括で集約し、調査・回答を行っています。品質保証部は、営業や企画、開発部門から独立した部門として運営され、関係部門と連携をはかりながら、お客様の声を品質向上に活かします。

お客様から報告された商品の不具合に関する情報は、定期的に開催される「品質会議」でも検討されます。品質会議では、クレームや不良品に関する情報の共有をはかり、商品の品質と安全性を高め、お客様満足度の向上に活かされます。



「事故事例品」のパネル展示は100点以上。「事故発生状況」「原因」「防止策」などに分けて解説されました

## 付加価値の高い商品開発のために

### 10年目を迎える開発委員会

「開発委員会」は事業部の枠を超え、既成概念にとらわれず、自由な発想から斬新な商品やサービスを生み出すことを目的とした社内の組織です。「開発委員会」が発足したのは、2001年。今年度で取り組みをスタートして10年目を迎えます。

当委員会は、すべての従業員から事業部の枠を超えて、広く新商品のアイデアを募り、ユニークで価値ある商品を世に送り出してきました。新規提案を促すにあたり、社内で自社商品を着用して商品を見直す取り組み、他社商品を解体してその長所と短所を学ぶ取り組み、一般アパレル商品を知ることでスポーツアパレルとの融合を目指す取り組みも実施してきました。

「開発委員会」が開発した商品には、「UVカット」シリーズ、遠赤外線作用のある「光電子」シリーズ、汗の臭いを消臭する「マキシフレッシュ」シリーズ、汗と加齢臭を消臭する「マキシレッシュプラス」シリーズ、動的冷却素材の「So Cool」シリーズ、カロリー消費量アップの「Calorie Shaper：カロリーシェイパー」シリーズなどがあります。そのいずれもが「高い機能性」、そして「感動」を体現するものばかり。

2009年からは「GREEN IS GOOD（グリーンイズグッド）」にも関係し、環境配慮型商品の開発にも着手しました。

今後も、「論理」「ひらめき」「技術」「コンセプト」「アイデア」「匠」といったキーワードを重ね合わせながら、高機能商品の開発に取り組んでいきます。



日常生活の様々な動きに負荷をかけて効果的にカロリーを消費する「カロリーシェイパー」



## 従業員とともに

ゴールドウイングループは、ひとりひとりの社員がいきいきと働ける、健康的で快適な職場環境を実現するために、さまざまな活動を行ってまいります。



## 従業員とともに

### より働きやすい職場づくりを目指して

#### 社内全面禁煙をスタート

社員の健康維持と、働きやすい職場づくりの一環として、世界禁煙デーとなる2010年5月31日より、社内の全面禁煙を開始しました。この取り組みは、社会的に高まりを見せる禁煙の動きに賛同し、社員とその家族の健康を維持すること、受動喫煙を防ぐことを目的としています。

5月31日からは、テナントビルを除くすべての事務所に喫煙所を撤去。施設内と当社主催イベントは、終日禁煙になります。あわせて、毎年5月31日を「ゴールドウイン禁煙デー」と定め、さまざまな禁煙に向けた取り組みを推進。社内では、小冊子などによる禁煙の啓発、産業医による禁煙支援セミナーの実施など、禁煙に興味を持った人が、気軽に情報を得られるように配慮しています。

これを機に禁煙をする従業員に対しては、ゴールドウイン健康保険組合主催の「禁煙支援キャンペーン」を用意。禁煙治療が保険適用とならない場合に、治療費の7割相当額（上限28,000円）が支給される「禁煙治療コース」か、禁煙補助薬（市販薬）などの購入費の7割相当額（上限15,000円）が支給される「セルフ禁煙コース」のいずれかを選択できます。なお、ゴールドウイン健康保険組合の禁煙支援キャンペーンに応募し、禁煙に取り組んでいる旨を指定の「宣誓書」で申告すると、禁煙補助金としてさらに5,000円が支給されます。

#### 要望の多かった「自転車通勤」を社内制度化

自転車、および自転車関連商品を扱うブランド「GOLDWIN」「SCOTT」を有することからも、社内でも求める声の多かった「自転車通勤」。その社内制度化に、2010年3月29日、スポーツ業界でいち早く踏み切りました。

その目的は、「社員自らが自転車に乗ることで、自転車を楽しむお客様の視点に立つこと」、「より生き生きとした生活を送ること」、「自転車によるエコな通勤を通じて、環境意識を高めること」の3つ。2011年4月現在の登録者は10名となります。制度利用者には、飲酒運転や過労運転をはじめ、7つの禁止事項の遵守が求められるほか、ヘルメットやグローブの着用、任意保険への加入などが義務づけられます。制度利用者からは、「ストレスを解消できる」「通勤ラッシュを避けられる」「出勤して、すぐに身体と頭が仕事モードになる」といった健康面でのメリットのほか、「ウエアやアクセサリーの必要性や欠点を発見して、開発サイドに助言できる」といった声が上がっています。

また、2010年7月から地下1階のシャワー室を7時30分から8時40分まで開放。利用者からは「汗を洗い流し、すっきりした気分で仕事に臨める」と、好評を得ています。



社内規定により経路が2～20キロの範囲になる場合のみ自転車通勤を認めています



自転車通勤者には、通勤距離に応じた通勤手当が支給されます。写真は、本社ビル地下1階に設けられた駐輪スペース

## 健康的な生活を送るために

### 恒例秋の運動会

社内コミュニケーションの一環として毎年実施されるのが、秋の運動会です。今年度は2010年10月16日、豊島園のグラウンドを会場に、東京地区に勤務するグループ従業員270名と、その家族90名の計360名が参加。部門ごとに分けられたチーム対抗で、リレーや綱引き、玉入れ、徒競走などが行われ、社長や役員をはじめすべての従業員が部門の枠を越えて、親睦を深めました。

和気あいあいとした雰囲気の中、競技種目になると熱がこもるのは「豊かなスポーツライフ」を旨とする当社ならではの光景です。トラック外では、プログラムにはないラグビーやサッカーなどに興じる社員の姿も。秋晴れの中、スポーツを通じて活発な交流がはかられました。また当日は、社長が会場をくまなく周り、多くの社員やその家族と直にふれあい、社内の和気あいあいとした雰囲気を家族の方にも感じてもらいました。

従業員が一同に会して汗を流すイベントには、健康増進や日頃の運

動不足解消という目的がある一方、従業員自らが自社製品を身につけ、新たな商品の提案に結びつけていく狙いもあります。今年度は、富山地区と東京地区の2カ所で多くの社員が運動会に参加しました。なお、運動会は土曜日に開催され、出勤扱いになります。



スポーツアパレル企業だけあって、運動会はただの社内交流イベントにとどまりません。競技に打ち込む社員の目は真剣そのものです

## ワークライフバランスを大切に

### 病気の予防と、早期発見

健康を害することなく、生き生きと働ける職場を提供することは、企業にとって重要な責任です。ゴールドウインは、社員が心身ともに健康な状態を維持できるよう、健康管理体制の充実、病気の予防／早期発見に力を入れています。法令に基づく定期健康診断の受診率は、完全受診を目指しており、事業所の従業員の受診率はほぼ100パーセントです。2010年度は、受診機関を20カ所から36カ所に増やし、受診スケジュールを柔軟にすることで、店舗に勤務する販売員の受診率は大幅にアップしました。

診断後のフォローも行い、長時間勤務者には重点的に指導しています。定期健康診断で所見があった社員には、法令に基づき特定検診機関と協力して、生活習慣を見直す指導を行うほか、メタボリック症候群のケアにも積極的に取り組んでいます。今年度、富山地区に関しては、富山県厚生センターの協力を得て、骨密度や血管年齢、脳年齢などの測定も実施。あわせて健康を維持するための食事レシピの紹介も行われました。このセミナーは従業員の約50パーセントが受診しました。

その他、運動会やスポーツ親善大会などの開催、契約スポーツクラブの利用促進など、社員の運動不足を解消する活動にも力を入れています。

ます。プログラム内には各種健康診断を取り入れ、健康への意識付けを行っています。また、ウォーキングキャンペーンの開催や、インフルエンザワクチンの助成も行っております。

### 時間外労働の削減

当社では、過重労働による健康障害を防ぐために、「ノー残業ディ」を設けています。あわせて「部署別残業データ」の社内公表により、残業削減への意識を高めてきました。また、社内放送による帰宅促進案内や強制消灯も実施。2010年度は、時間外労働を前年度に比べ10%以上削減しました。1カ月あたりの時間外勤務時間が80時間を超えた社員には、産業医が簡易健康チェックを行い、病気の予防と早期発見に努めています。2010年度は、東京地区に勤務する従業員60名が産業医による月2回の相談会に参加しました。

### 積極的なメンタルヘルスケア教育

社員が心の問題を抱えることは、企業のパフォーマンスにも少なからぬ影響を及ぼします。当社は、社員の心の健康を守るために、会社組織として「メンタルヘルス教育」を推進しています。また、健康不安や悩みごとを相談できる「相談窓口」を設置して、多角的に社員のメンタルヘルスのケアに取り組んできました。

## 正しい食生活を送るために

### 「社員健やか元気食堂推進事業」を継続

理想的な食生活やメタボリックシンドローム予防の啓発を目的とした「社員健やか元気食堂推進事業」を、昨年度に引き続き展開しました。具体的な実施内容は、次の通りです。

### 身体の計測から健康に

2010年9月28日、29日には「自分を知らう！測ってみよう！測ってわかる運動のすすめ」と題し、富山本店食堂に計測機器を用意しました。「8電極式体組成計」では、全身、右足、左足、右腕、左腕、体幹部、部位別体脂肪率、推定筋肉量、基礎代謝を測定。「足指力計測器」では、下肢筋力を3段階で測定できます。測定結果にもとづいた健康促進アドバイスを求める社員のために、相談コーナーも用意されました。そのほか、イスに腰かけて電源を入れるだけでリラックスできる、足裏マッサージ器3台も用意されました。

### 食生活を見直すイベント

富山本店食堂では、2010年10月4日から7日まで、食生活体験イベントの一環として、120グラム以上の野菜を使用し、カロリーを700キロ以下に抑えた「きらきらメニュー」を数量限定で提供しました。10月6日、7日には、1日に必要とされる野菜の量や、味噌汁の塩分量、ごはんの量を知ることを目的とした催し「体験しよう！考えよう！あなたの食生活をブラッシュアップ！」を実施。1日の野菜摂取目標量350グラムを上手にとるコツを示した「パネル展示」のほか、自宅の味噌汁を持参することで、その塩分濃度を計測できる「特別コーナー」や、展示された野菜の重量を当てる「クイズコーナー」も用意しました。東京本社の食堂でも、600キロカロリーに抑えた「毎日食べれば、1週間で48品目。ローエナジー弁当」を季節ごとに提供しています。

### 恒例の「クッキングセミナー」を実施

2010年12月11日、富山県小矢部市総合保健福祉センターの調理実習室で、昨年も好評だった「クッキングセミナー」を実施しました。講師に小矢部市健康福祉課の栄養士を招き、健康に配慮したメニューとして、簡単手作りピザ、具たっぷりあったかスープ、クリスマスケーキを調理。参加者全員による試食も行われました。

調理の前には、手軽にできるストレッチや筋力づくりを、とやま健康パークの健康運動指導士が講習。ならびに、オフィスで手軽にリフレッシュできるヨガの講習を、日本ヨーガ療法学会認定のヨーガ療法士が実施。食事面のみならず、運動面からも、健康的な生活を見直すセミナーとなりました。



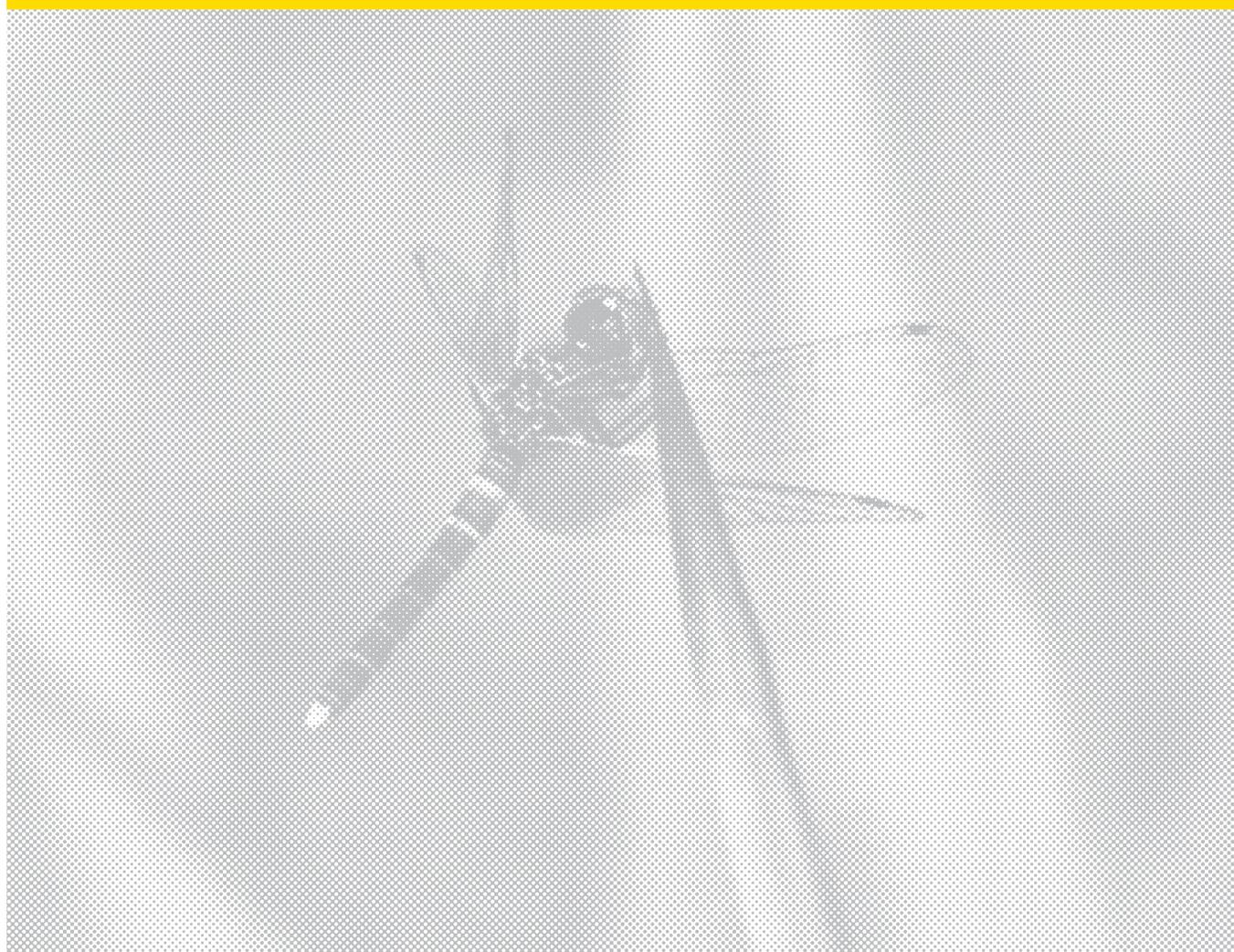
小矢部市総合保健福祉センターで開催された「クッキングセミナー」。運動面からも健康を見直すプログラム構成



この日は親子連れを含む40人程度が参加しました

## 地球環境とともに

ゴールドウイングループは、環境負荷の低減をめざし、地球環境と調和のとれた持続可能な循環型社会の実現に、さまざまな形で取り組んでまいります。



# 地球環境とともに

## 持続可能な社会を実現するために

### 環境基本理念

私たちには、自然と共存し調和ある繁栄を実現する崇高な使命が与えられています。ゴールドウイングループは、スポーツウエアをはじめ各種機能ウエアの企画、製造、販売を通じて環境負荷の低減を目指すとともに、健康総合企業として地球環境にやさしい商品の提供により環境への有益な影響を増進するなど、地球環境保護への姿勢を以下の環境方針に定めます。

### 環境方針

1. 事業活動または保有する設備が適用を受ける環境に関する法律、規則およびその他要求事項を遵守するとともに、可能な限り自主基準を設定し、環境の汚染予防と保全に努めます。

2. 事業活動が環境に与える有害な影響を認識し、全社員参加によりその影響を低減し、緑の地球を守ります。

3. 環境影響を改善するための目的・目標の設定、及び見直しを実施し、継続的な改善活動を実施します。

4. エネルギーおよび資源の使用量・排出量を十分に認識し、限りある地球資源の有効利用、産業廃棄物の削減を実施します。

5. 持てる経営資源を結集して独自の技術を開発し、人の健康と環境にやさしい商品の開発を推進します。

6. 自然と生き物が健康体であり続けるために、自然環境に調和し、地域社会と共存できる企業であり続けます。

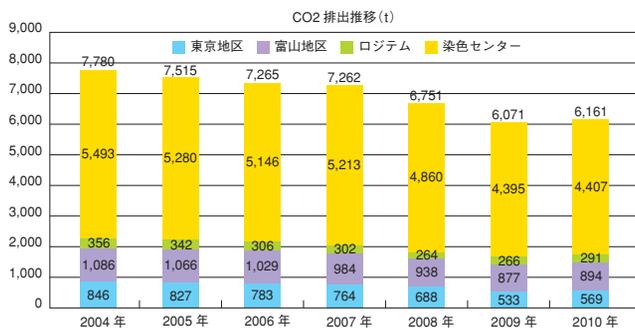
## 2010年の活動報告

### 環境汚染の予防

① トラック輸送で排出されるCO<sub>2</sub>を削減するため、返品率の抑制に努めました。

② 電気・ガス・重油などの使用量の抑制、輸送方法や交通手段の改善によるCO<sub>2</sub>削減を推進しました。

[活動結果] 2010年度は、夏の猛暑と冬の極寒の影響により、冷暖房費が増加。最終的に達成度は97パーセントと、目標未達となりました。



### 限りある地球資源の有効活用

歩留まり改善活動や、余剰原材料の再利用に取り組みました。

[活動結果] 歩留まり改善件数は60件。余剰原材料再利用金額は6,900万円になりました。

### 産業廃棄物の削減

富山工場を中心に、産業廃棄物の削減と再資源化活動を推進し、ゼロ

エミッションを達成しました。また産業廃棄物の発生予防の活動として事前検査試験などの活動を強化しました。

[活動結果] 富山地区での産業廃棄物の再資源化率は100%となりました。

### 人の健康と環境に優しい商品の開発

① GREEN IS GOODのコンセプトのもと、循環型商品や環境配慮型商品の開発、推進を行いました。

[活動結果] 1,100品番を開発しました



② 今年度より販売比率についても目標を掲げました。

[活動結果] 売上比約7%の商品を販売できました。

③ 自社直営店を中心に、エコショップを定義し販売強化に取り組みました。

### 地域社会との共存

① 東京、富山、大阪の各地区で、近隣清掃を実施しました。またビーチクリーンへの参加者を募り、清掃活動を継続的に実施しました。

② 事務用品のグリーン購入の推進に取り組みました。

[活動結果] グリーン購入比率は97%となりました。

## 環境への意識をより高めるために

### 環境フェスティバル 「Earth Day Tokyo 2010」に特別協賛

2010年に40周年を迎えたアースデイ（地球の日・4月22日）は、国境や民族、信条、政党、宗派を越え、世界184の国と地域、約5,000カ所で多くの大人から子どもが参加する、世界最大級の環境フェスティバルです。地球のため、未来のために行動するこの1日に、当社は今年も特別協賛しました。

アースデイの会場となる代々木公園では、アウトドア関連企業が加盟する、アウトドア自然保護基金「ザ・コンサベーション・アライアンス・ジャパン（以下CAJ）」参加メンバー8社とともに、「アウトドア・ビレッジ」を出展。CAJが中心となって、フィールドからの視点で自然環境問題をテーマにしたトークライブを展開したほか、出展各社の製品紹介、映画、ライブ、ワークショップと盛りだくさんのプログラムが繰り広げられました。

THE NORTH FACEのブースでは、当社が取り組む環境配慮型製品開発コンセプト「GREEN IS GOOD」(P21参照)を紹介。「GREEN IS GOOD」は、地球温暖化をはじめとする環境問題に対し、スポーツ用品メーカーという立場からできることをコンセプト化したもの。環境負荷を軽減する素材を積極的に採用した商品、環境負荷を減らす設計の商品、使う人の環境への意識を高める商品などを紹介しました。

## PVCフリー素材で環境に配慮

### 環境への配慮と機能性を両立

野外フェスや雨の日のデイリーユースまで幅広く使える、「Base Camp Bootie」と女性向けの「W Base Camp Bootie」は、リサイクルラバーを40パーセント配合したラバーソールを持つ、環境配慮型のレインブーツです。アッパー部分には、耐久性が高く環境への負荷が大きいポリ塩化ビニール（PVC）を一切含まない、PVCフリーパバロン素材を使用。

Base Camp Duffleでおなじみの本シリーズに新しく登場したBase Camp Bootieは、Hydro Seal WATERPROOFを使用した防水仕様。しかも非常に軽量です。アッパー部分は、丸めてコンパクトに折りたたみ、持ち運びにも便利です。



代表的な展示商品のひとつ「THE NORTH FACE Trek & Field Jacket」。使用素材のパーテックスマイクロライトECOは軽量で防風・撥水性の機能を備えながらリサイクルが可能



2010年6月上旬より、全国のTHE NORTH FACE 取扱店で発売を開始。カラーはBase Camp DuffleでおなじみのTNFレッド、TNFイエロー、ブラックの3種類（W Base Camp Bootie）。ユニセックスタイプのBase Camp Bootieには、さらに2カラーを加えた5色展開

## 環境を考える製品開発コンセプト「GREEN IS GOOD」

### 消費者コミュニケーションを強化

「GREEN IS GOOD」は、スポーツアパレル企業として環境に配慮した事業活動を行うための指針です。このコンセプトのもとに「GREEN CYCLE（くりかえし使う）」、「GREEN MATERIAL（選んで使う）」、「GREEN MIND（大切に使う）」という3つのサブコンセプトを設けて展開しています。

このロゴマークを、より消費者に愛されること、より親しんでもらえること、よりメッセージがよく伝わることを目的として、リニューアルしました。あわせてプロモーションキャラクターも設定。ハングタグやパンフレット、WEBを通じて、このコンセプトを広く伝えました。キャラクターは、ともにアクションを起こす消費者であることを意味します。

### イベントに循環型対応商品を導入

イベントで使用するスタッフユニフォームや、参加賞として配られるウェアを、循環型商品に切り替えることで、イベント参加者に対して循環型リサイクルシステムを訴求しました。同時に、使用後の回収についても呼びかけています。

循環型リサイクルTシャツ導入の第1弾は、全国17カ所以上で開催された「MIPスポーツゲームズ」の参加賞です。MIPスポーツゲームズは、子どもたちが経験の有無に関わらず、さまざまなスポーツをトップアスリートやトップコーチから教わり、新たな楽しさを発見していくプログラム。当社は、2001年からこのイベントの理念に賛同し、Championブランドにて協賛し続けています（P33参照）。

### 環境配慮型ファスナーを採用

「GREEN IS GOOD」促進活動の一環として、YKK株式会社の環境配慮型ファスナー「NATULON（ナチュロン）」を2011年春夏から「GREEN CYCLE（くりかえし使う）」の対応商品に採用しました。NATULONは、ペットボトルや古繊維などのポリエステル端材を再利用した、省資源の循環型商品。ファスナーや面ファスナー、樹脂パーツといった、さまざまなファスニング商品で展開されています。NATULONは、製造段階でもCO2の排出量を削減し、エネルギー使用の面でも環境負荷を軽減。また、ポリエステル部分も循環が可能です。その点で、当社の「GREEN IS GOOD」の「GREEN CYCLE」のコンセプトに合致しました。

2011年春夏には、全ゴールドウインの取り扱いブランド「THE NORTH FACE」、「HELLY HANSEN」、「ellesse」、「canterbury」、「GOLDWIN（バイク）」などの12ブランド250品番でナチュロンを使用し、「GREEN IS GOOD」の対象商品となりました。

GREENISGOOD<sup>®</sup>



GREENCYCLE GREEN MATERIAL GREEN MIND



GREEN IS GOODの新しいロゴマーク



「MIPスポーツゲームズ」の参加賞にGREENCYCLE対応Tシャツを導入。循環型リサイクルシステムに対する理解を促すのと同時に、使用後の回収を呼びかけます



YKKのNATULONを採用した「THE NORTH FACE Borealis Jacket」(写真左)と、「HELLY HANSEN W/S HALF ZIP SHIRT」。ともに、環境に配慮した循環型リサイクル対応の商品

## 製品の購入からはじまる植樹活動

### 通算3回目の「ワンプロダクト・ワンツリー」開催

地球環境への負荷を軽減した「エコフレンドリー」商品の購入1点につき、社会貢献活動団体「CSP」を通じて、お客様に代わり1本の木が植えられる「ワンプロダクト・ワンツリー」キャンペーンを2010年も行いました。2008年から通算3回目となるキャンペーンでの対象商品は9品目。今年度は900本の植樹を達成しました。木を植えてくれたお客様に、お礼として記念カンバッチ(2個一組)とフライヤーのプレゼントを実施しました。

エコフレンドリー商品には、リサイクル素材を使用することで、製造段階で環境負荷を軽減したものと、循環型リサイクルシステムに対応することで環境負荷を軽減したものの2種類があります。いずれも、環境保全に役立ち、地球温暖化抑止に効果的です。

社会貢献活動団体「CSP」は、「一人一人が創造的な表現者として行動を起こし、社会を変える力となる」をモットーに掲げる団体です。自然環境の再生を目的に、2009年までに国内外に25,500本の木を植えてきました。

## 従業員の環境への意識を大幅にアップ

### 「アートウインISOの日」を実施

ゴールドウインのグループ会社、アートウインは、ISO14001の環境活動の一環として、毎年10月第2土曜日を「ISOの日」(2010年は10月16日)に定めています。この日は、全従業員が集い、「CSR・環境教育」「防災訓練」「各設備の緊急時対応訓練」、および「近隣地域の清掃活動」を行っています。

午前中は消防計画にもとづき、消防訓練とガス供給施設や染色機などの緊急事態対応訓練を実施。続いて染色機、仕上テンター、ボイラー、コンプレッサーなどの設備の取り扱いを訓練しました。午後からは、東京より講師を招き、CSR・コンプライアンス研修と、EMS一般教育としてゴミの分別についての学習を。最後には、全従業員で会社周辺の地域約2キロメートルの清掃活動を実施しました。

「ISOの日」を迎えるのは、今年で5回目。勤務体制が、2交代や3交代のため、普段は全従業員が一同に会することはありませんが、年に一度のこの活動を通じて、社員が揃って環境への意識を高めてきました。また継続することによって、従業員の積極的な参加も促進。環境への意識が向上した結果として、今年度はゴミの量も例年に比べて大幅に減少しました。



写真左はPETリサイクルポリエステルを使用した「THE NORTH FACE PET BC Messenger XS」。中央の「THE NORTH FACE Clipper PET」もPETリサイクルポリエステルを使用。写真右はメリノウールリップストップを使用した「THE NORTH FACE Tree Hugger32」。いずれも代表的なエコフレンドリー商品です



会社周辺地域、約2キロメートルを全従業員で清掃

## 自然にあふれた地域との共存を目指す

### 新スタイルのショップ、鎌倉にオープン

海や山といった素晴らしい自然環境に恵まれた鎌倉エリアに「THE NORTH FACE HELLY HANSEN 鎌倉店」をオープンしました。ショップのコンセプトは「From Ocean to Mountain」。THE NORTH FACEやHELLY HANSENの商品を通じて、鎌倉ならではの「歴史」「旅」「日々の生活」「海や山でのアウトドアスポーツ」といったメッセージを発信するとともに、トップアスリートや自然を愛する人たちが、素晴らしい体験や感動を分かち合える店舗を目指します。

エントランスには、人々が集う場として広いスペースを設置。オープン時には、店内にYuri Shibuyaのヨセミテの写真を展示するなど、海や山をモチーフにしながら、季節を感じさせるアートワークでシンプルな店内を演出しました。「Ocean」をテーマにした写真や陶器、吉田博氏の版画を使用した演出も行われています。また、2010年7月10日、11日には、鎌倉材木座海岸で開催されたラフウォータースイム・ジャパンシリーズ第3戦「ラフウォータースイム・イン・鎌倉」にHELLY HANSENが協賛。こうしたアウトドアフィールドに近い利点を活かしたイベントにも積極的に関わっていきます。



THE NORTH FACE HELLY HANSEN 鎌倉店 (ザ・ノース・フェイス ヘリーハンセン 鎌倉店)  
神奈川県鎌倉市小町1-9-4 松風堂ビル1・2F

## 「環境に良いこと、体に良いこと」を提案する場所

### DANSKIN Green Heartのショップ

2011年3月17日に「DANSKIN Green Heart 二子玉川ライズ店」をオープンしました。1882年、「IN MOTION」をコンセプトにニューヨークで生まれたDANSKINは、インドアからアウトドアまで、スポーツをライフスタイルにする女性のためのブランドです。なかでも「DANSKIN Green Heart」は、ペットボトルからリサイクルした繊維や、成長サイクルの早いバンブー（竹）繊維を製品に採用するなど、自然環境に配慮しているのが特徴です。

代表的な取扱商品の「カラフルパレット」ラインのキャミソール、フレアショーツ、トレンカロングは、カラーとアイテムの組み合わせが自由に選べるのが特徴。「自分らしい新スローエキササイズスタイル」を、あらゆるシーンに合わせて探し出せます。キャミソールとフレアショーツは、身体の動きに添う2ウェイストレッチ性と吸汗速乾性があり、またペットボトルよりリサイクル活用したポリエステル糸を使用し、まさに身体にも環境にもやさしいウエアです。

今後も当店は、DANSKIN Green Heartの「環境に良いこと、体に良いことを無理なく、楽しく、おしゃれに」をテーマに、エコ素材を用いたウエアやグッズで、「機能性」「快適性」を提案していきます。



ダンスキン グリーンハート 二子玉川ライズ店  
東京都世田谷区玉川2-21-1 二子玉川ライズショッピングセンター タウンフロント5F

## 子どもの創造力、個性を育むために

### Art を通じてEarthを考えるワークショップ

「Artを通してEarthを考える」をキーワードに掲げた、子どもたちの子どもたちによる子どもたちのためのワークショップ「POWWOW-aeaa Earth Kids Project -7 NATURE USAGI- (パウアウ-アエアアアース・キッズ・プロジェクト セブン・ネイチャー・ウサギ)」が、2010年5月23日にららぽーと横浜で、同年9月23日に富山県のグランドプラザで開催されました。

同ワークショップの目的は、アウトドアや環境に対する考え方を子どもたちに伝えていくこと。講師にナタリア・リヴォビッチ氏と藤田央氏を迎え、2人が作成した「7 Nature USAGI」の巨大紙芝居を観てもらいながら、自然の大切さを一緒に考えました。

ららぽーと横浜での開催時には、紙芝居の後に、子どもたちが感じたことや子どもたちの夢を、大きな白いキャンバスに表現してもらいました。グランドプラザ富山での開催時には、キャンバス代わりに大きなダンボールを使い、そのダンボールをトンネルの形にして、みんなで願いごとを唱えながらぐり抜けました。最後には全員で夢を語り合うことで、想像力を養い、個性の大切さを感じてもらった当ワークショップ。全参加者には記念品も贈られました。



グランドプラザ富山での開催風景。集まった子どもたちが話し合い、絵を書き、世界にメッセージを発信しながら、恵まれない子どもたちのために子どもたち自らが行動を起こすことを目的としています

## 貴重な生態系を保護する

### 天然記念物「ハッチョウトンボ」を確認

ゴルフ倶楽部ゴールドウインの2番ホールから、3番ホールのインターバルにある沼地には、富山県指定天然記念物「ハッチョウトンボ」が生息します。開場以来19年間、目撃者はいませんでしたが、2010年7月、ついにその生態が確認されました。

ハッチョウトンボは、はねの長さ約15ミリ、胴の長さ2センチほどの、世界で最も小さなトンボの一種です。成熟したオスは赤色の姿が非常に鮮やか。メスと成熟していないオスは、黄色に黒のしま模様が特徴的です。はねは透明、胴に近い部分は橙黄色、先端に一点黒い部位を持ちます。幼虫は常に湧水のある湿地に見られる泥の中にだけ生息。成熟したオスは1～2メートルの縄張りを作り、接近してくるオスを追い払う一方、メスが近づくと空中で捕まえて交尾をします。そのメスは縄張り内の浅い水たまりの水面に産卵をします。



世界で最も小さなトンボ、ハッチョウトンボのメス

当社は、今後もこうした小さな世界にある貴重な生態系を積極的に保護する活動に取り組み、次世代に受け継いでいきます。

## 地域社会とともに

ゴールドウイングループは、企業市民として社会と共生し続けられる企業であるために、地域に根ざした社会貢献活動を、幅広く展開してまいります。



### さまざまな形で、東日本大震災からの復興を支援

#### 寄付金2,000万円と社内募金200万円

平成23年3月11日金曜日に発生した東日本大震災によって被災された方々に対して、当社は日本赤十字社を通じた2,000万円の寄付を皮切りに、さまざまな支援を行ってきました。

全国のゴールドウイングループの社内および直営店と自主管理売り場には、募金箱を設置。社内募金で集まった100万円は、すでに寄付をすませています。また関係会社のゴールドウイントレーディングも100万円の寄付を行いました。

#### 支援物資106,500点を提供

ヤングワンコーポレーション（韓国における当社の関連会社ゴールドウインコリアの共同出資先）と、ゴールドウインコリア、当社の三社共同で、次の支援物資を提供しました。

- ① フリース製毛布を約15,000枚
- ② 防寒ウェア、靴下、タオルなど約85,000点（THE NORTH FACE、ellesse、HELLY HANSEN、canterburyなどの取り扱いブランドより）
- ③ MXPの消臭下着、保温下着など約6,500点

#### チャリティマッチへの協賛

Championは2011年5月7日に六本木ヒルズアリーナで開催された「東日本大震災復興支援 チャリティ・ファイトイベント ～立ち上がろう ニッポン！～」に協賛するとともに、このイベントのスタッフ用Tシャツ100名分を提供しました。

当イベントは、元K-1 WORLD MAX世界王者の魔裟斗氏（チャンピオンアドバイザー契約）の呼びかけにより実現したもので、魔裟斗氏が一日限定で復活し、総合格闘家の山本 "KID" 徳郁氏や、現役格闘家、引退した格闘家ら9名と、2分3ラウンドでチャリティマッチを行いました。賛同者として名を連ねたのは、緒形健一氏、小比類巻太信氏、HAYATO氏、新田明臣氏、安廣一哉氏、武田幸三氏、平野仁氏。イベント会場で集められた義援金200万円は、日本赤十字社を通じて被災地の方々に全額寄付されました。

#### 25パーセントの節電を目標に

当社では、来る夏の電力不足に備え、25パーセントの節電を目標に掲げました。7月から9月までは定時退社を奨励するほか、夏期休暇の延長、クールビズの徹底も行います。空調設備に関しては、設定温度を1度アップ。それによって業務効率が悪化するのを防ぐために、扇風機やサーキュレーターを併用します。照明器具による節電も25パーセント以上を目標とし、LEDおよび高照度の照明器具との入れ替えを進めました。

当社は、今後も1日も早い復旧がされるよう、政府および自治体の政策などを確認し、現地の復興に必要とされるものを見極め、継続的な支援を行っていきます。



日の丸の上に、力強いメッセージ「STANDS UP! JAPAN 立ち上がろうニッポン！」がのせられたスタッフTシャツ

## 国境を越えて広がる災害支援

### 被災者支援 Tシャツの販売

当社の子会社であるカンタベリー・オブ・ニュージーランドジャパンは、2011年2月22日に発生したニュージーランド地震、および2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災された方々の復興支援を目的に、「canterbury」ブランドのチャリティTシャツを販売しました。このTシャツに掲げたメッセージは「Together for 2Countries 1Goal」。被災したふたつの国がともにひとつのゴール（復興）を目指してほしい、という願いを込めました。利益の全額は、日本赤十字社を通じて、日本とニュージーランドに50パーセントずつ寄付され、被災地の救援活動に役立てていただきました。

また、カンタベリー・オブ・ニュージーランドジャパンは、ブランド発祥の地ニュージーランドの被災者救援に向けて募金活動を実施。実施店舗は全国のカンタベリーショップ、およびカンタベリー・オブ・ニュージーランドジャパンと当社社内の合計約30カ所。募金期間は2011年2月26日から3月21日までで、義援金は日本赤十字社を通じて3月末に寄付されました。

### 売り上げの1パーセントを寄付

当社取り扱いブランドであるmacpacの売り上げの1パーセントを、当ブランド発祥の地ニュージーランドを襲った大地震の被災者救援に役立てていただくため寄付しました。

期間は、2011年2月22日から3月21日までの1カ月間。3月末に日本赤十字社を通じて募金され、被災者の救援活動に役立てていただきました。

### 地下約700メートルに閉じこめられた作業員に消臭下着を提供

2010年8月5日にチリ共和国北部サンホセ鉱山で起きた落盤事故により、地下約700メートルに閉じこめられた作業員33名に、消臭下着「マキシフレッシュプラス アンダーシャツ」と「同ボクサーブリーフ」を各3セット、合計99セットを外務省・宇宙航空研究開発機構（JAXA）を通じて提供しました。

「マキシフレッシュプラス」は、着るだけで汗のニオイと加齢臭をカットできる特殊素材。当社が宇宙航空研究開発機構（JAXA）とコラボレーションし、宇宙での着用を経て製品化した素材です。この素材を応用し地上用に開発したアンダーウェア「MXP」を提供しました。作業員が閉じ込められている空間と、宇宙飛行士が過ごす国際宇宙ステーションの空間は、ともに閉鎖されている点で似通っています。精神的にも肉体的にも過酷な地下で、汗のニオイを気にすることなく、少しでも快適に過ごすのに最適な下着が「MXP」です。



被災したニュージーランドと日本が、「ともに1つのゴール（復興）をめざしてほしい」というメッセージ「Together for 2Countries 1Goal」がプリントされた、被災地復興支援Tシャツ



提供されたのはアンダーシャツとボクサーブリーフ。ともに、加齢臭の原因となるノネナールや、汗のニオイ成分であるアンモニア臭などに、高い消臭効果を発揮。メッシュ切り替えて通気性にも優れているため、着心地はさらっとしています

## 清掃ボランティアを通じた地域貢献

### 東京本社周辺での定期的な活動

清掃ボランティアは、ゴールドウインが環境保全の一環として取り組んできた活動のひとつです。東京地区では2006年5月より、本社周辺（渋谷松涛地区）の清掃を開始。以後、年に3～4回程度のペースで継続してきたこの活動は、2011年1月14日には14回目を数えました。当日は62名のボランティアスタッフが参加。スタート当初は当社単独でのボランティアを予定していましたが、周辺への呼びかけにより地域企業3社が加わり、4社合同で活動を続けています。2008年2月には渋谷区長から感謝状が贈られました。今年度は4社以外からの参加もありました。

### 富山地区での活動

事業所周辺の清掃活動は、東京地区のほかに富山地区でも実施しています。2010年6月5日、6日には、津沢夜高あんどん祭りの期間中に行われる清掃ボランティアに、当社からも2日間で12名が参加。津沢地区で生活する社会人として、地元住民とともに活動することで、ISO14001の「環境方針」にも掲げられる「地域社会と共存できる企業」を目指します。次年度以降も継続的に参加することで、地域貢献に努めていきます。

### 富山地区（ゴールドウインロジテム）での活動

ゴールドウインロジテムは、事業所のある富山県小矢部市藪波地区で、2010年6月19日に、周辺地域の環境保全を目的とした清掃を実施しました。清掃地域は、浅地、安養寺、戸久など、約2キロのコース。従業員とご家族を含む20名が参加。紙類、ペットボトル、空き缶、その他、計7キログラムのゴミを収集しました。藪波地区での活動は、前年度の活動を含め今回で5回目。多くの従業員が高い意識をもって清掃に取り組んでいます。

### 氷見市松田江海岸のクリーンナップを継続

ゴールドウインの富山地区グループ会社は、2010年7月10日に氷見市松田江海岸で、一般参加者とともに「ビーチクリーン」を実施しました。この活動は2006年度にスタートし、今回で5回目の開催となります。当日は家族連れを含む200名の従業員が参加。終了後には、松田江海岸に隣接する氷見市海浜植物園の見学も自由参加で行われ、社員による家族ぐるみの交流がはかられました。



2006年にスタートした本社周辺での清掃活動。地域企業3社が加わり、4社合同で継続しています



津沢夜高あんどん祭りの期間中に行われる清掃ボランティアに参加。地域社会と共存できる企業を目指します



氷見市松田江海岸で、一般参加者とともに「ビーチクリーン」を実施。今回で5回目の開催を迎え、参加者は年々増えています

## 高校生がバスケットボールを楽しむ環境作り

### 16チームが参加した「チャンピオンカップ」

「日々の練習で自らを高め、仲間との絆を深めてきた部活生が、その成果を発揮できる場を提供したい」「腕試しをしたり、ゲームを純粋に楽しんでもらいたい」という思いから生まれたバスケットボール大会が「チャンピオンカップ」です。高等学校に所属するバスケットボール部であれば、どのチームでも参加できます。

2010年12月18日と19日に開催された第2回大会の会場は、東京都永山市の都立永山高等学校。男子8チーム、女子8チームの全16チームが2日間に渡って熱いトーナメント戦を繰り広げました。優勝チームには、新発売されたChampionのデイパックに学校名をプリントして贈られました。

会場には、Championの最新アイテムなどに触れられる展示ブースも設置。アンケートも実施され、高校生バスケットボールプレイヤーの声を集めることで、今後の製品作りに活かしていきます。チャンピオンカップは、国内最大級のバスケットボールコミュニティサイト「Rokyu.net」と連動し、高校生がよりバスケットボールを楽しむ環境作りをサポートします。



チャンピオンカップは、バスケットボールのコミュニティサイト「Rokyu.Net」と連動しながら年に3回の開催。ゴールドウインの取り扱いブランド「チャンピオン」と、バスケットボールとの高い親和性を印象づける効果も期待される

## 若手プレイヤー層の拡大のために

### 初のジュニアゴルフ大会を主催

ゴルフ倶楽部ゴールドウインが主催する初のジュニア大会「第1回ゴールドウインジュニアチャレンジ大会」が2010年8月13日に開催されました。本大会の開催目的は、次世代のゴルフプレイヤーの層を拡大すること。参加資格は、小学4年生から高校生までの日本ゴルフ協会（JGA）ジュニア会員登録者です。競技方法には、18ホールストロークプレイ新ペリア方式を採用。31人の参加者の中には、10日後に県ジュニア大会を控えているプレイヤーも多くいたことから、それを想定した試合運びを見せる選手が多く見られました。

賞品にはGOLDWINのウエアを用意。プレイヤーとその保護者で表彰式を囲み、楽しい雰囲気のもとで賞品授与が行われました。2011年8月には、第2回大会の開催を予定しています。今後も当社はジュニアのゴルフ人口拡大と、プレイ環境のサポートを継続していきます。



プレイヤーとその保護者で囲まれた表彰式

## 緑豊かなゴルフ環境を維持するために

### チャリティーゴルフで10万円を募金

地球環境を守りながら、緑化を推進するチャリティーイベント「第4回緑化チャリティー小矢部市長杯」が、ゴルフ倶楽部ゴールドウインで開催されました。2010年8月28日の開催当日は、残暑が厳しいなか、小矢部市市長の桜井森夫氏をはじめ、小矢部市在住の人たち、小矢部市にお勤めの人たち、当倶楽部の会員が参加。18ホールストロークプレー、新ペリア方式でスコアが競われました。

この日集まった募金額は10万円。すべて、「花と緑の銀行」小矢部支店へ寄付されました。この取り組みは、緑豊かな環境でゴルフをプレーできることに感謝し、市の緑化に協力しようと4年前からスタートしたもの。コンペ開催のたびに当倶楽部の会員に協力を呼びかけてきた結果、今回の参加者は総勢93名へと大幅に増加しました。



93名の参加者により大いに盛り上がったイベントの表彰式

## 障がい者福祉を支援する取り組み

### 12回目を数える恒例ウェルフェアゴルフ

「第12回北陸ウェルフェアゴルフトーナメント」が、2010年5月19日にゴルフ倶楽部ゴールドウインで開催されました。

当トーナメントは、大会を通じて障がい者福祉への正しい理解を深める活動の推進を図り、スポーツの語源である「楽しむこと」を認識し、ゴルフの原点である「フェアプレー」の精神に立脚し、「ルール・マナー・エチケット」に通暁するプレイヤーを育成することを目的としたもの。1999年以降、毎年開催されてきました。開催当日は、富山県をはじめ県内外から89人が参加。「一般男子」「シニア（62歳以上）」「女子」の3部門が用意され、18ホールストロークプレー、ダブルペリア方式で競いあいました。表彰式には、大会顧問である寛仁親王殿下がご臨席。「15回、20回と大会を継続させ、障がい者福祉のため、社会貢献に参加してほしい」とお言葉を述べられ、優勝者に優勝杯を手渡されました。

当トーナメントの収益金900,000円は、障がいを持つ人たちを支援する富山市八尾町のNPO法人「愛和報恩会」に贈呈。寄付金は風呂場やトイレなどの改修費などにあてられました。第12回大会の運営には、前回大会の寄付金贈呈先であるNPO法人「このゆびとーまれ」や、ライオンズクラブ国際協会334D地区が協力。富山市出身の当社所属の森口祐子プロからも参加しました。



大会会長挨拶

## 障がい者スポーツの発展のために

### 視覚障がい者のクライミングをサポート

クライミング界、クライマーを応援してきた当社は、視覚障がい者のクライミングをサポートするNPO法人「モンキーマジック」の活動を支援するTシャツを今年度も発売しました。このTシャツの販売は、2006年からスタートして今年で5年目。売上の10パーセントがモンキーマジックに寄付されます。

また「モンキーマジック」に寄付（一口4,000円）をした方にも、サポートメンバーの証として、このTシャツがプレゼントされます。

今年度のTシャツは、視覚障がい者用の杖と、クライミングギアのカラビナをモチーフにしたデザイン。これまで同様に、モンキーマジックのテーマ「No sight But on sight!」（「見えなくても、見えづらくっても、オンサイトで登れるぜ！」）のメッセージを記した点字が、背中に凹凸プリントされています（オンサイト：初めてのルートを落ちずに登りきるというクライミング用語）。

多くの場合、スポーツを諦めざるを得ない視覚障がい者でも、ロッククライミングをすることは可能です。NPO法人「モンキーマジック」はスクール活動を通じて、視覚障がい者がクライミングにチャレンジする手助けをし続けています。



ユーザーからの要望に応え、岩場でも映える明るいカラーもラインナップ。ボディは吸湿速乾性の高いポリエステル100%。ペットボトルなどをリサイクルした素材で、循環型リサイクルにも対応。ボロボロになるまで使ったら回収して再利用されます

## サイクリングのマナー向上をめざして

### TEAM KEEP LEFTのオリジナルジャージを制作

サイクリングブームを、より安定的なムーブメントへと導くために、自転車のマナーと交通ルールの啓蒙、改善提言を推し進める「TEAM KEEP LEFT 実行委員会」の活動に賛同し、「TEAM KEEP LEFT」オリジナルジャージの制作を行いました。

本ウェアには、左側走行をイメージするアシンメトリーデザインの中に、「Manner mode cyclist= modesty（しとやかなマナー・サイクリスト）」というメッセージを持つグラフィックを使用。制作にあたっては「ゴールドウイン・バイクウェア・カスタム・オーダーシステム」を活用しました。ライディングポストチャーに合わせて立体裁断されたオリジナル設計で、身体にフィットしながらも運動機能を妨げない、半袖ジャージ、ハーフショーツ、ビブショーツ、アームカバーの4点を制作。



「ゴールドウイン・バイクウェア・カスタム・オーダーシステム」では、ゴールドウインのクオリティをそのままに、半袖ジャージ、長袖ジャージ、メンズビブショーツ、ハーフショーツ、アームカバー、レッグカバーを用意。豊富なサイズ展開で1着からのオーダーも可能

当社は今後さまざまな形で自転車のマナーの啓蒙を継続していきます。より多くのサイクリストに交通ルールの重要性を認識してもらい、自転車を安全で快適に楽しめる社会の実現を目指します。

## 高性能ウェアが大チャレンジを支える

### 「間寛平・アースマラソン」の オフィシャルサプライヤー

当社は、風力（ヨット）と人力（ランニング）だけで、2年をかけて地球を横周りに1周する36,000キロメートルの一大アドベンチャー「間寛平・アースマラソン」のオフィシャルサプライヤーを務めました。

2008年12月17日に、大阪府大阪市のなんばグランド花月をスタートし、2011年1月21日に大阪城音楽堂でゴールを果たすまで、トータル766日のアースマラソン。当社は、2009年新春の太平洋横断、同年夏の大西洋横断に引き続き、青島から福岡においても、クルージングウェアでこのアースマラソンをサポートしました。ヨット搭乗時に着用されたウェアは、HELLY HANSENが独自に開発した高防水透湿素材「ヘリーテックXP」を使用した「HELLY HANSEN Evenes Hooded Jacket」。雨や風、雪の進入をシャットアウトできる上に、高い透湿性を兼ね備え、汗をかいても蒸れません。ジャケットとミッドレイヤーが連結するZIP-IN-ZIPシステムにも対応。寒いときにはフリースや光電子ダウンといったミッドレイヤーを一体化させて着用できます。

世界最高峰エベレストへ75歳で登頂成功したプロスキーヤーの三浦雄一郎氏の支援同様、当社はこうした前人未踏の挑戦を続ける人たちを、これからも積極的にサポートしていきます。



東シナ海のヨット搭乗時に着用した代表的ウェアが「HELLY HANSEN Evenes Hooded Jacket」。HELLY HANSENが独自に開発した、高防水透湿素材「ヘリーテックXP」を使用

## 恵まれない環境に生きる子どもをサポート

### 不要なものにはじまる支援活動

身近にあるものを捨てずに活かす、特定非営利活動法人「シャプラニール＝市民による海外協力の会」（以下シャプラニール）の活動に賛同し、当社は2009年から、社内で購入した書籍や、当社の広告が掲載された雑誌の中から不要なものを回収し、シャプラニールに寄付してきました。それらの古本は寄付金に替えられ、バングラデシュやネパールの働く子どもたちの生活改善にあてられます。

バングラデシュやネパールでは、1,000円あれば料理教室を1回開催することができます。両国で家事使用人として働く少女たちは、家事が上手になることで、より大きな自信をもつことができます。1,000円の価値は日本に比べてずっと大きなものとなります。また3,000円あれば、2カ月のミシン研修に必要な材料を揃えることができます。少女たちは、ミシンが使えるようになると、将来の仕事の選択肢が広がります。

シャプラニールは、不要になった書籍・雑誌以外にも、「書き損じハガキ」や「中古CD」など、日常生活で不要になったものを海外協力で活かす活動「ステナイ生活」を運営しています。そのほかにも募金、寄付活動、フェアトレードの推進といった海外協力の手段を幅広く

提供し、恵まれない環境に生きる子どもたちのサポートを続けています。当社は、今後も引き続き、こういった気軽に取り組むことができる支援活動を応援していきます。



現地でミシン研修を行うのに必要な費用は3,000円程度。少女たちはミシンが使えることで、将来の選択肢を広げられる

## スポーツの楽しさを次世代に伝える

### 子どもたちが様々なスポーツを体験できる「スポーツゲームズ」をサポート

当社は2002年より、スポーツを通じて「青少年の健全な育成」を目指すNPO法人「MIPスポーツ・プロジェクト」の「スポーツゲームズ」を支援してきました。ここでは、イベントスタッフと参加者全員のユニフォームの提供などを継続的に行っています。「MIPスポーツ・プロジェクト」は、さまざまな分野で活躍してきたトップアスリートたちにセカンドキャリアを提供することで、新たなスポーツ産業を生み出している団体。現役引退後のアスリートが自らの経験を生かし、子どもたちに「スポーツの楽しさ」や「スポーツ文化の素晴らしさ」を伝えています。その主幹事業である「スポーツゲームズ」は、子どもたちに普段行っているスポーツではなく、未体験のスポーツの機会を与えます。

2010年度には、サッカーやバスケットボール、バレーボールなど幅広いスポーツを体験する機会を、全国15カ所で提供、延べ3,670人の参加者を集めました。開催に際して、遊びの中から運動神経を発達させるさまざまな動きを知り、身体を動かすことの楽しさを体験する「MIP親子コーディネーター」や、元気に歩き続けるための筋力を維持・向上させる運動を体験する「セーフティーウォーキング」もあわせて実施。トップアスリートから専門的な技術指導を受けられるプログラム「スポーツクリニック」、子どもの成長期に必要な栄養や食事について学べるプログラム「子どものスポーツ栄養学セミナー」も行われました。

近年、高校生や大学生を中心に、スポーツ人口が減少するのにもとない、子どもの身体能力は低下、クラブ活動も縮小化傾向にあります。そうした状況に歯止めをかけるためにも、より多くのスポーツと触れあう機会を子どもたちに与え、スポーツの楽しさ、すばらしさを知ってもらう活動は欠かせません。また、新たなスポーツ体験は、将来のスポーツライフをより豊かなものにする可能性も秘めています。そのほかにも、スポーツを通じて限界に挑戦し成長することや、競い合い助け合うことで友情を育むことを含め、スポーツは子どもたちの心身の成長に大きなプラスとなるはずです。

「スポーツのある生活を通じて、心と身体の健康を提供する」を企業理念に掲げる当社は、今後も「スポーツを通じた子どもたちの健全な育成」に積極的に取り組んでいきます。



サッカーやバスケットボール、バレーボールなど幅広いスポーツを体験する機会を、2010年度には全国15カ所で提供



現役引退後のトップアスリートを指導者に迎えた本格的な指導。はじめてのスポーツに臨む子どもたちを前に熱がこもります

## 次世代のスキーヤーの育成をサポート

### 20年以上に渡り「ナスターレース」を支援

当社は、1981年からスキー業界活性化に寄与してきた「NPO法人ナスターレース協会」を、支援してきました。「ナスターレース(NASTAR RACE)」とは「National Standard Race」の略称で、全国標準のレースのこと。基準となるナショナルベースセッターのタイムと、大会参加者のタイム差をナスターレースポイント(NST-P)という数値で表し、自分のスキーのレベルを数値で得られるのが特徴です。そのためナスターシステムが導入されている大会であれば、レースのコースや日程が異なっても、ナスターレースポイントで自分の成績を比較できます。

日本国内ではナスターレースポイントが算出される公認大会は年に50レース以上開催されています。ナスターレース協会は、全国ランキングの発表、FISチルドレンカテゴリーに沿った内容での全国大会の開催(ジャパンカップ)、FISチルドレンレース世界大会への選手派遣などを実践。多くの子どもたちにナスターレースの面白さを知ってもらうとともに、レベルアップの目標にしてもらい、スキーを生涯スポーツとしてもらいたいと考えています。

### 2011 ゴールドウインナスターレース CHILDREN/KIDS CHAMPION SHIP

2011年3月5日、宮城県のオニコウベスキー場で、「ゴールドウインナスターレースCHILDREN/KIDS CHAMPION SHIP 東北決勝大会」が開催されました。この大会は、東北6県で行われた県予選を勝ち抜いた選手で競われるもの。県予選には、一部の大会を除き、県外選手も出場できるため、新潟県苗場スキー場で開催されるジャパンカップ同様に、ウィスラーカップ派遣選手選抜大会として、東北以外からも注目が集まっています。当日のエントリー数は321名に上りました。

### ウィスラーカップへ優秀選手を派遣

チャンピオンシップでの上位2選手と、全国ランキング上位8選手が、日本チームとして、2011年4月8日から4月10日に開催された「FISチルドレンレースウィスラーカップ」に派遣されました。本年度は25カ国から330名の強豪がエントリー。日本選手のうち4名はK-1クラス、6名がK-2クラスに参戦しました(K-1=チルドレン1、K-2=チルドレン2)。K-1クラスでは、SL・GSともに女子は1位と7位、男子SLでも3位と表彰台を占めました。K-2クラスにおいても男子SLで8位、女子GSで5位をマーク。国別対抗戦でも3位と、素晴らしい成績を勝ち取りました。

### 初めてスキーを履く子どもを対象とした講習

昨年度に引き続き、初めてスキーを履く子ども(おおむね小学校低学年以下の年齢層)を対象とした「ナスターレースキッズチャレンジ」が行われました。当プログラムは「スキーを楽しい遊びと感じてもらい、そして何度もスキーをしたいと思ってもらうこと」を目的に実施されています。「自力で滑り出す」「自力で止まる」「左右に曲がる」といった基本的な動作については、クリフプロスキースクールにメソッドの構築と講習、検定を依頼。北海道北広島クラッセスノーパークでの開催日には185名、ばんけいスキー場のクリフプロスキースクールでは13名の検定希望者が、講習終了後に受験して合格し、認定証とバッジを受け取りました。



北広島クラッセスノーパークで実施された「ナスターレースキッズチャレンジ」。はじめてスキーを履く子どもたちは、自力で滑り出すことと止まること、左右に曲がることなどを学びます



FISチルドレンレースウィスラーカップに派遣された片桐麻海選手。チルドレン1クラス女子の部で、大回転と回転で2冠を達成しました

# 会社情報

株式会社ゴールドウィン  
GOLDWIN INC.

東京本社  
〒150-8517 東京都渋谷区松涛 2-20-6  
TEL 03-3481-7201 (代表)

本店  
〒932-0112 富山県小矢部市清沢210  
TEL 0766-61-4800 (代表)

設立  
昭和26年12月22日

資本金  
10,329百万円

年商 (連結)  
42,374百万円

年商 (単独)  
37,344百万円

従業員  
1,178名 (グループ 1,709名)

事業所  
本店、東京本社、大阪支店、札幌営業所、名古屋営業所、  
北陸営業所、福岡営業所

(2011年3月31日現在)

会社概要詳細  
<http://www.goldwin.co.jp/corp/info/outline.html>

ホームページ  
<http://www.goldwin.co.jp/>

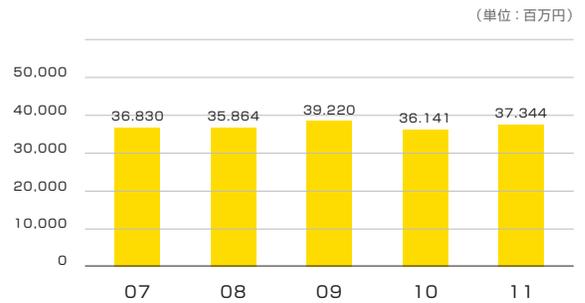
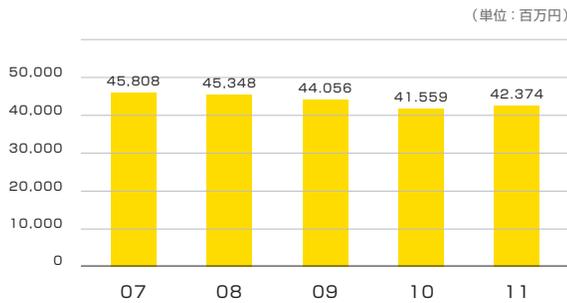
決算公告・決算短信  
<http://www.goldwin.co.jp/corp/ir/index.html>

## 経営情報

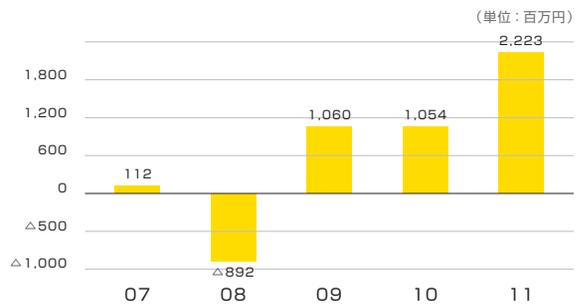
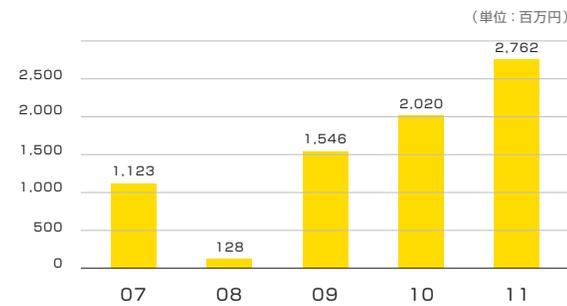
### 連結

### 単独

#### 売上高



#### 経常利益



#### 当期純損益

